

Yamakado News Letter



7月後半から8月前半にかけての活動

8月3～5日の3日間、毎年恒例の永原小学校の夏休み自由研究相談会が行われました。3年生から6年生までの12名の参加があり、それぞれのグループに対し引き継ぐ会の会員が1、2名が補助につきました。今

の時代はインターネットなどを通じてあらゆる情報が手軽に入手できますが、却って一次情報に接する機会が減っているように思います。そんな中、9時から16時頃までの丸一日を森の中で過ごし、自然と直接触れ合うのは子供達にも良い機会になったのではないのでしょうか。

研究のテーマは「夏のしょくぶつしらべ」、「ヒツジグサについて」、「森のひなたとひかげの温度差調べ」、「キノコかんさつ」、「山門水源の森で見られる生き物」など。キノコ観察では、例年この時期はキノコが大発生しますが今年は発生状況がいまひとつ。探すのに苦労した様子でした。ここしばらく雨が全く降っていないことが影響しているのかもしれませんが。雨は7月28日から8月13日までの17日間、全く降っていません。同期間の柳ヶ瀬のアメダスも0mmが続いています。（裏面へ）

4年生の「夏のしょくぶつしらべ」の研究の最中に、オオシオカラトンボの産卵現場に遭遇。しばらく観察。

そんな連日真夏日が続く中、守護岩付近のササ群落を一部ですが防獣ネットで囲う作業を行なっています。ブナの森周辺では今年の春からササ群落の保全を開始していますが、こちら枯死状況が酷く、追加で保全区画を設定することになりました。資材運搬は当然ながら人力のみ。防獣ネット12張りとトラロープを200m分を運び上げて、1重目の囲いをなんとか完了しました。場所的にパトロールが十分できないので、シカの食い破りに対応するため、もう一重ネットを回す予定をしています。また一度ササ刈りを行うと再生度合いが良くなるのが別の区画で確認されていますので、区画内の林床整備やササ刈りも順次行ってゆく予定です。



最近の森の様子

雨が降らず地面もカラッカラ。空を見上げれば雲が覆うことも少ない晴天が続いています。できれば日陰でのんびり涼んでいたい、そんな気分になる今日この頃です。そんな中、森の中では昆虫の交尾や産卵する姿があちらこちらで観察できました。昆虫たちは「暑い暑い！」と文句も言わず、ただひたすらに次の世代に命を引き継ぐための活動を続けています。

資材を背負って守護岩へ出発するところ。夏場は水分補給の量も増えるので、自分の荷物も重くなる。



ギンヤンマの産卵 付属湿地



ミヤマクワガタの交尾 湿原入口付近



オニヤンマの産卵 北部湿原作業道



ノコギリワガタの交尾 湿原入口付近

編集者自己紹介

201号より編集担当となりました冨岡明です。2012年度より森林キーパーとして常駐で山門水源の森の保全の仕事をしています。よろしくお願ひします。